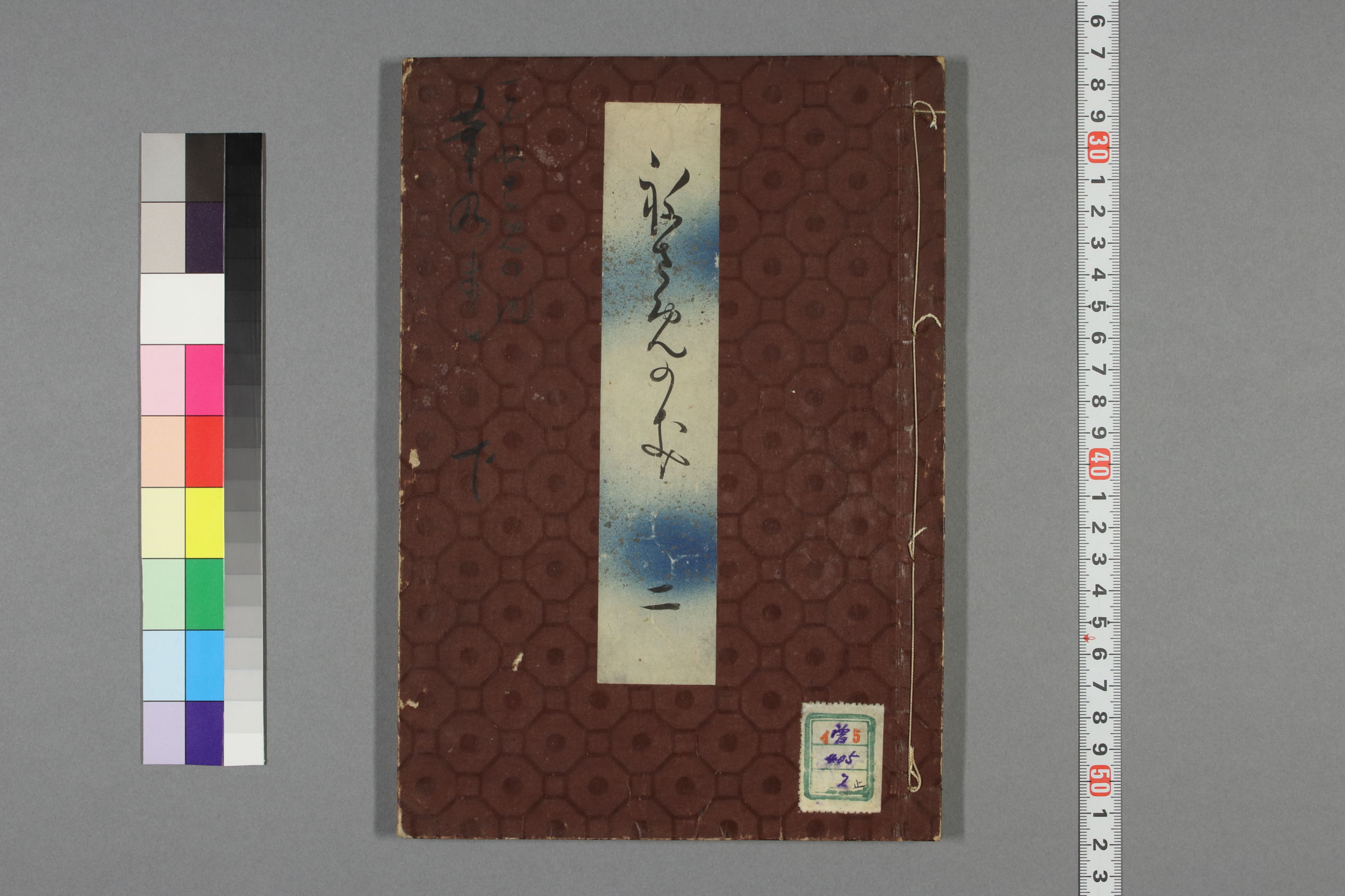

門イ 5
號
巻

硯湖祕蔵
苛書辻壹

和泉或部の女少或ア円侍につゝしまれはかやまひ
いとしたく主くなりてなのもしけなくなれは和泉
或ア侍にたひのてゐたひをおはくて泣けれは月をなさう
ゑはして毎の歳をつくくとこそ
いらはしゆくなきかもおもふへき歳をはしたる道を
いとまとりたてたはこゑにてしよはれは天井のしたていと
きゆくときなかしてあらえていはてはりこそ後ゑ
力のなつかしさもさゑて日はりよおこたりたてまり
いらはいとしきのこともしし

堀川院御時江帥五月青々菖蒲をとりて御
つりけるに候ける

進上　水邊菖蒲

千年青青　大江為武

かくれたりとこいかりにしたりまゐられいとこのちからを志るへ
なりけるに昭和にまゐ此ハ弼のお給ふてさふらはれけり
かくれたりあんしつゝあらはれたり
たてまつるなにくるべきのあやめ草ちとせのさつきいつかたへせん
大屋裏住定家の所遠志ありと仰ひて

うくひきも堀もおかしし　家仲弓御とむもまゐらせしかくもあり
あるまゐにこれの義の所持せしたまへとて御の和秘
義しけるへ　まゐりしまゐらせんはぬるまゐりしもの所粉
さしつゝものハ家の中の比そしめて日本に流りしものくいり
みして西行のかゝるのやうをとひ遣ふ江の本文
かたまこのむまゐしいふれさしれハよそ世の流りしきもの
みちあれとていよく　心めこまゐりけりとそしてせ
ハさうひさうもの　今のうりけるも中納言行東に源三の
うくしより所不持なされて所望しきれしものとして